



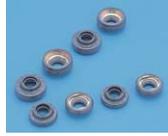
# EKK Group CSR Report 2011

EKKグループ CSR報告書 2011 WEB版



## 2 EKKのCSRビジョン 大きな地球を守る、 確かな技術

EKKグループの製品は、産業機器などの安定運転を支えるだけでなく、機器内部からの油、溶剤、冷媒などの漏れを防ぎ、地球環境汚染防止に大きく貢献しています。



## 8 特集 「最先端」を支える EKKの技術



世界中の産業機器や船舶機器の中で、なくてはならない存在として活躍するEKKグループ製品にスポットを当てました。



## 4 トップメッセージ

「より良い会社」を常に追求しながら、「より良い社会」の実現に貢献していきます。



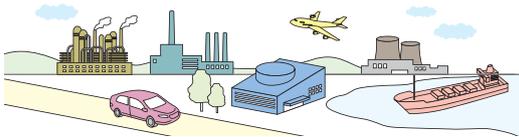
## 10 経営体制 CSRマネジメント

企業の社会的責任を果たしていくため、経営体制の充実に努めています。



## 6 暮らしと社会を支える EKKグループ

EKKグループは、その多彩な製品を通して、世界中の人々のくらしやさまざまな産業分野で貢献しています。



## 12 環境報告 環境マネジメント



環境管理体制を構築し、EKKグループ全体で効率的・効果的な活動を推進しています。

## 15 環境報告 環境負荷削減の取り組み

事業活動に伴う環境負荷を把握して、その削減に向けた取り組みに活かしています。



### EKKのCSRビジョン

# 大きな地球を守る、確かな技術



EKKが世界に誇る、シール精密技術。

そこから生まれる製品は、

エンジンや産業機器などの安定運転を

支えるだけでなく、

機器内部からの油、溶剤、冷媒などの

漏れを防ぎ、地球環境汚染防止に

大きく貢献しています。

## 18 社会性報告 お客様とともに 品質への取り組み

お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。



## 19 社会性報告 地域とともに 地域・社会との交流



社会性報告 地域とともに  
地域・社会との交流

## 20 社会性報告 従業員とともに 働きやすい職場づくり

個人の能力を引き出し、会社全体の発展につなげるために、安全で働きやすい職場環境づくりに努めています。



## 22 日本と世界に広がるEKKグループ



### 編集方針

本報告書は、環境活動報告、安全衛生活動報告に加え、社会的側面に関する記載の充実にも努めました。環境省「環境報告書ガイドライン(2007年版)」および「GRIサステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」を参考に作成しました。

### ■報告対象期間

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日)の実績が中心ですが、2011年度の取り組みを一部含んでいます。

### ■報告対象組織

イーグル工業株式会社/イーグルブルグマンジャパン株式会社/KEMEL株式会社/岡山イーグル株式会社/鳥根イーグル株式会社/イーグルハイキャスト株式会社/広島イーグル株式会社/北海道イーグル株式会社/イーグルサービス株式会社/リグナムバイター株式会社/株式会社バルコム

### ■報告書発行日

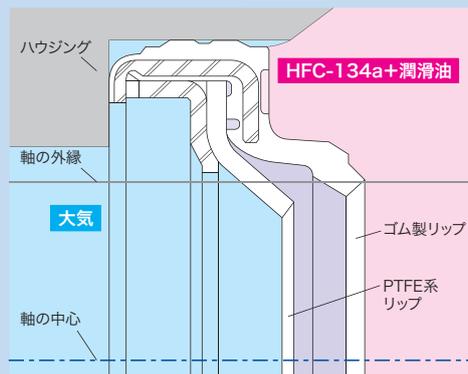
2011年7月28日

### ■CSR報告書に関するお問い合わせ

イーグル工業株式会社  
業務本部 総務部 CSR課  
TEL.03-3432-3892 FAX.03-3432-5448  
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15  
URL <http://www.ekk.co.jp/>

### たとえばカーエアコンで、CO<sub>2</sub>の1,300倍も強力な温室効果ガスの大気放出を防いでいます。

カーエアコン等のコンプレッサーの冷媒には、オゾン層を破壊しない代替フロン「HFC-134a」が使われます。しかし、この物質はCO<sub>2</sub>の約1,300倍もの温室効果を有するガスです。CO<sub>2</sub>の大気中濃度が年々急速に高まっていることが大きな環境問題となっている中で、EKKのコンプレッサー回転軸シールであるリップシールは、コンプレッサー内部の冷媒を密封し、大気中への漏れを防ぎます。EKKの優れたシール技術は、地球温暖化防止の面でも大きく貢献しています。



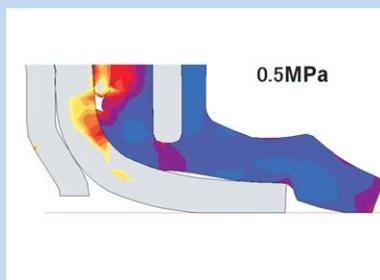
「回転軸シール」断面図

### 高度なシール性能で、カーエアコン心臓部を長期にわたり支えます。

EKKリップシールの高度な基本性能は、密封流体側に配された耐冷媒性の高いゴム材料と、大気側に置かれた自己潤滑性の高いPTFE系材料による優れた構造によって支えられています。運転時における各部の使用圧力を高い精度で検証できるFEM解析技法を用いた最適構造を細部にわたって追求し、耐久試験等で十分な検証を行うことで、長期の使用に耐える高い信頼性を確保しています。



EKKリップシール



高圧時のFEM解析結果

# 「より良い会社」を 常に追求しながら、 「より良い社会」の実現に 貢献していきます。



## はじめに

マグニチュード9.0の巨大地震、巨大津波、原子力発電の危機、多くの人々が犠牲になられたことは言い知れぬ悲しみです。被災された方々に限りない連帯の思いを寄せ、この未曾有の苦難を乗り越え、夢あふれる明るい未来を、笑顔の人生を取り戻していただくために、私たちイーグル工業グループの一人ひとは、会社として何ができるのか、皆で考えてまいりました。

さしあたり、被災された茨城・岩手・福島・宮城各県の対策本部にそれぞれ五百万円、また日本赤十字社に二千万円、合計で四千万円を義援金として寄贈させていただきました。

また、復興のための当社製品の需要には優先的に応えていくことにいたしました。さらに、節電のための各種施策も展開することにいたしました。

## 未曾有の危機にある発電事情に正面から取り組む

私どもイーグル工業株式会社は、日本にある多くの原子力発電所に対して、地震発生時に自動的に閉止する主蒸気隔離弁や余熱除去ポンプ用メカニカルシール等の重要保安機器を納入しております。また子会社のイーグルサービス株式会社は、原子力発電所の定期点検工事を主業務としております。

当社は今後とも、CO<sub>2</sub>削減のためにも電力需要に応えるためにも欠かせない原子力発電用機器の納入を継続していかなければならないと考えております。そして、もう一方で、本当に安全で安定した原子力発電の開発に貢献していかなければならないとも考えております。

考えてみれば、数十億年にも及ぶ地球の歴史の中では、今回の地震は記録に留まらないほどの事象であったのではないのでしょうか？

大陸が分裂し、水没し、隆起し、巨大隕石が衝突し、という巨大災害時でも、例えば瞬時に絶対零度で冷却し、安定停止するシステムが今後の継続的な原子力エネルギー利用のためには必要であり、当社はこのテーマに取り組んでまいります。

また、原子力発電に匹敵する現実的な代替発電方法は、火山国日本においては地熱発電であると思います。この分野にも研究を重ねてまいります。

今、未曾有の危機にある発電事情、この問題に正面から取り組むことこそが、イーグル工業グループに課せられた最も重要な企業の社会的責任の一つではないかと思料する次第です。

## 製品を通して、地球環境と社会に貢献

さて、当社は売上高1,000億円、従業員数5,000名(内日本人は2,000名)、連結子会社17カ国41社を含む関係会社は43カ国102社に及ぶグローバル中堅企業に成長してまい

りました。

主力製品であるメカニカルシールは動力軸封装置と訳されますが、ポンプやコンプレッサー等回転機器には欠かせない部品であります。これを欧州ブルグマン社とアライアンスを組み、イーグルブルグマンブランドとして世界中の石油精製・石油化学・鉄鋼・紙パルプ・食品・薬品・前述の電力等の業界に納入しております。また、家電や灌漑用水ポンプなどにも幅広く使われています。

さらに当社単独でこれを陸海空のモビリティ、すなわち陸においては自動車・二輪・建設機械、海においては船、空においてはロケット、ジェット機、ヘリコプター等の輸送機器の例えばプロペラ・インペラー等の回転部分にご使用いただいています。

これらのいずれのアプリケーションも回転機器が作動する部分において液体・気体等の流体が外部に漏れることを防ぐ部品であり、必然、お客様を始めとしたステークホルダーの方々とともに環境保護、省エネ促進で社会に貢献してきたと自認する次第であります。

### 「環境」「省エネ」「品質」「安全」がCSRの基本

私たちは事業の内容や、その事業の考え方・進め方が「本当に必要なのか、不必要なのか」「正しいことなのか、正しくないことなのか」、そして「自然なことなのか、不自然なことなのか」を常に考えています。その事業の内容が直接・間接に影響を受ける全てのステークホルダーに本当に幸福をもたらすものなのかを真剣に考えます。言い換えれば当社に関わりある



全ての人々に対する使命と責任を果たすことが肝要であり、そのことが企業の長期的利益に繋がり、企業の社会的価値を高めていくと考えます。そのためには長期的利益の犠牲の元に短期的利益を追ってはならない、と肝に銘じています。

「環境」「省エネ」に配慮し、常に製品やサービスの「品質」にこだわり、企業にとって最大の資産である従業員の「安全」を永遠の絶対のテーマとして追求していくことが、CSRの根本・本質であると考えています。

「CSR報告書2011」はステークホルダーの皆様に対し、イーグル工業グループの環境保全活動への取り組み、品質の向上および社会的な活動に対する考え方や実績を紹介させていただきます。

皆様の忌憚りの無いご意見・ご感想をいただければ幸いです。

イーグル工業株式会社  
代表取締役社長

鷲 鉄 二

## ステークホルダーとのかかわり

- ニーズに合った高品質の製品が、合理的なコスト・納期で的確に供給されること
- 納入された製品に関し、維持・修理のアフターケアが適切になされること
- 技術力を持ち、新製品の開発、新分野への展開を支えてくれる信頼できるパートナーであること

- 勤労を通じ適切な報酬を得ること
- 生産活動を通じ社会に貢献すること
- 物質的・精神的両面から豊かな生活を追求する糧が得られ、多様な目標が高い次元で達成される場が提供されること

- 健全な企業活動が行われ、安定した納税・雇用機会創出がなされること
- 集団として社会との広範な繋がりがはぐくまれ、地域社会の活性化に貢献すること
- 製品の普及を通じ環境保全に資すること



- 企業価値が確実に向上していくこと
- 配当と企業体質強化のための内部留保とのバランスをとり、長期的かつ安定した適切な株主還元がなされること

- 製品・サービスを安定して納め、それに伴う適切な対価が得られること
- 取引を通じ、技術力を高めたり新分野を切り開いたり、あるいは企業としての信頼性の向上が得られること

- 信用供与等の金融取引を反復・継続して行い、リスクに見合った適切な収益が得られること
- 取引を通じ、金融取引における応用性を拡大するとともに、企業としての信頼性の向上が得られること

# くらしと社会を支えるEKKグループ

## 航空宇宙

航空機やロケットのエンジンメインシャフトやエンジンギアボックス、ターボポンプに使われる各種シールなどを供給しています。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に採用されているペローズアキュムレータもEKKグループ製品です。



スタティックシール



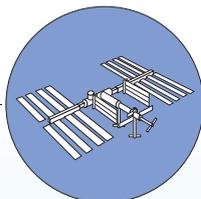
セグメントシール



航空エンジン用シール



ブラシール



## 石油化学、鉄鋼、医薬、水、紙、食品

石油化学等の装置産業で大型コンプレッサーに使われるガスシール、工業用大型ポンプやプロセスポンプ等に使われるメカニカルシール、あらゆるケミカル分野で有効な攪拌機用シールユニット等をはじめとして、多様な製品群をそろえています。



グローバルカートリッジシール



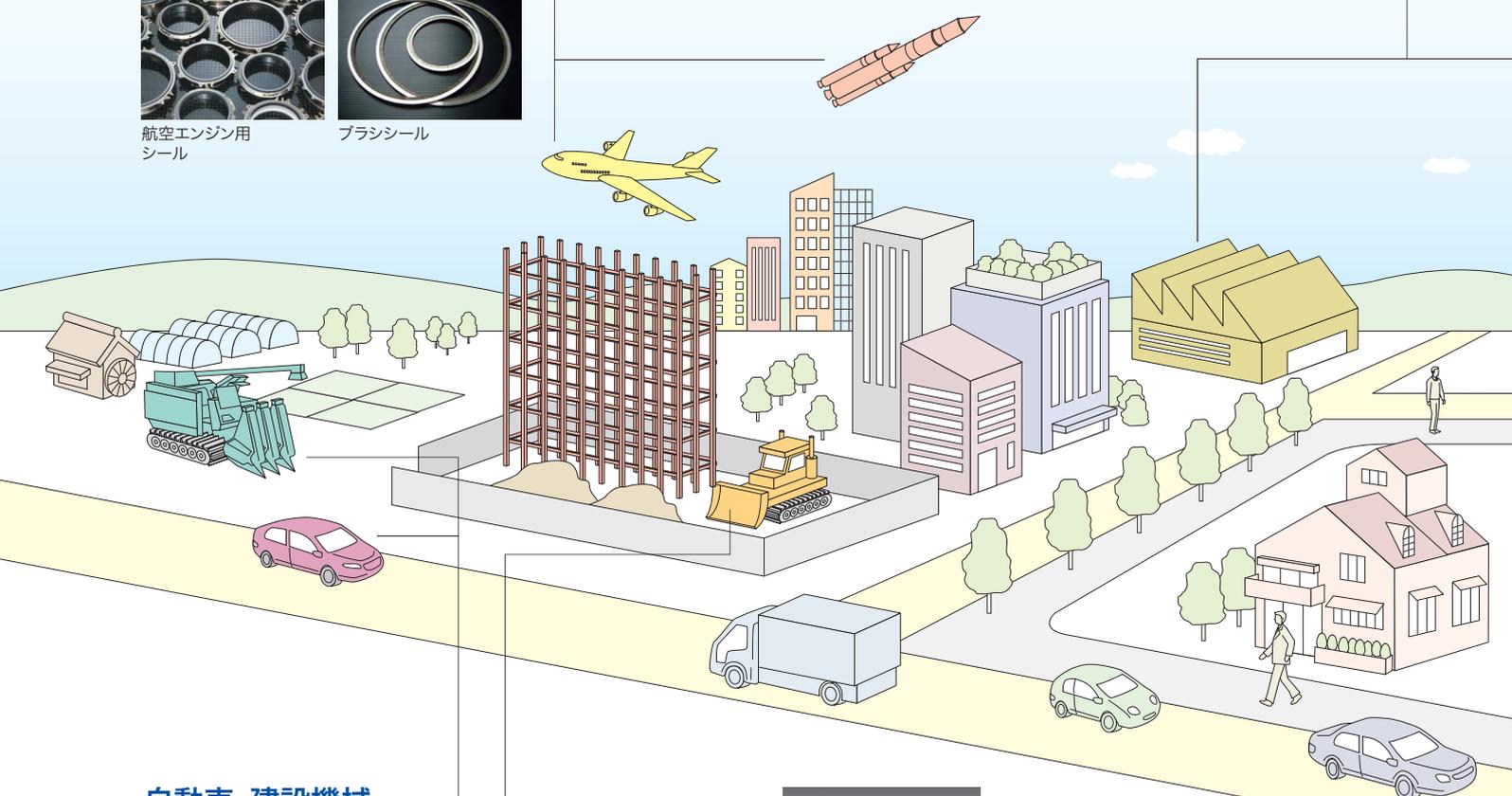
メタルペローズシール



攪拌機用ドライシール



ドライガスシール



## 自動車、建設機械

カーエアコンやウォーターポンプのシール、エンジン等各種装置のソレノイドバルブ、二輪車等の排ガス対策用リードバルブ、建設機械や農業機械等の足回りに使われるフローティングシールなど、多彩な製品を安定的にお届けしています。



ウォーターポンプ用メカニカルシール



カーエアコンコンプレッサー用リップシール



メカトロニクス製品



アクチュエータ・バルブ製品



建機用フローティングシール

### 私のCSR活動



イーグル工業(株)  
九州支店  
中島 春香さん

無駄な電力を使わないよう、営業が不在のデスク付近や、朝会の際、使わない全ての部屋を消灯しています。節電は、会社だけでなく家庭でもできる「簡単な事」です。今年は震災の影響でさらなる節電が必要とされます。継続するのは難しいのですが、未来のため、小さなことからコツコツと始めていきましょう！

EKKグループは、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を大きな柱に、各種メカニカルシール、特殊バルブ、船舶用製品、航空宇宙用製品、ペローズ応用品、ダイヤフラムカップリング等をお届けしています。これらの製品は自動車、船舶、各種プラント、航空機やロケット等にはなくてはならない存在として広く利用され、世界中の人々のくらしや産業分野で貢献しています。

## 半導体製造

半導体製造装置やフラットディスプレイ製造装置の真空シールに使われる磁性流体シール、シリコンウェハーを研磨する化学研磨機やラッピング装置等に使われるロータリージョイント、ペローズなどがあります。



磁性流体シール



ロータリージョイント



溶接金属ペローズ



カルレッツ®、スペリア

カルレッツ®は、米国デュポン社の登録商標です。

## エネルギー

発電プラントのポンプ、タービン、発電機等に使用されるシールや、沸騰水型原子力発電の主蒸気隔離弁などを製造しています。



ノーコンタクトシール



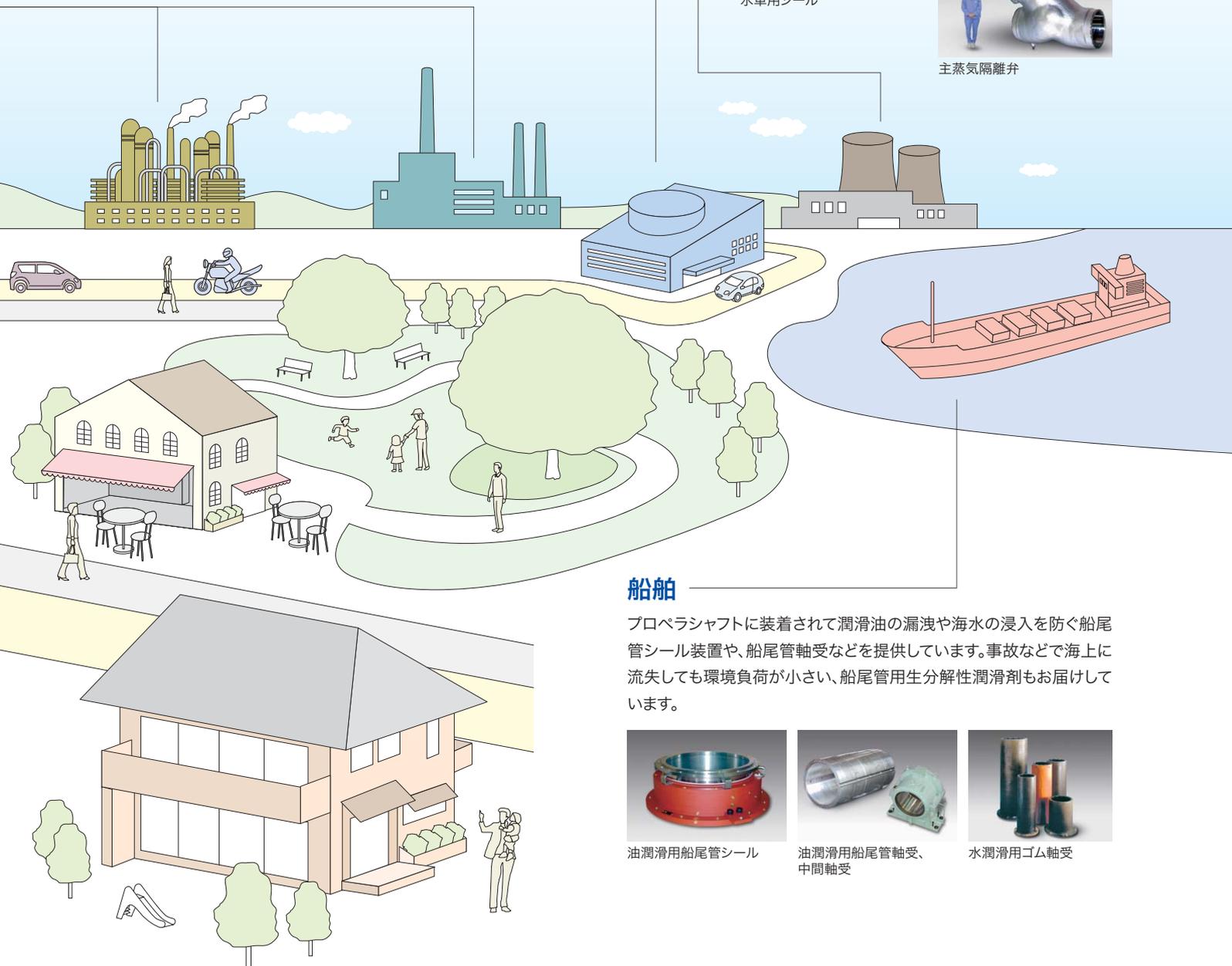
ダイヤフラムカップリング



水車用シール

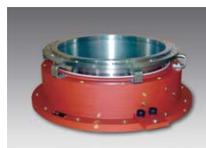


主蒸気隔離弁



## 船舶

プロペラシャフトに装着されて潤滑油の漏洩や海水の浸入を防ぐ船尾管シール装置や、船尾管軸受などを提供しています。事故などで海上に流失しても環境負荷が小さい、船尾管用生分解性潤滑剤もお届けしています。



油潤滑用船尾管シール



油潤滑用船尾管軸受、  
中間軸受



水潤滑用ゴム軸受

# 「最先端」を支えるEKKの技術

EKKグループは、長年にわたり独自のシール精密技術を磨いてきました。その先進の開発力に裏打ちされた豊富な経験と実績、そして環境技術は、世界各国の社会基盤や産業、人々の生活を支える多くの製品に活かされています。

## 世界中の産業機器に装着され、その働きを中核で支える

イーグルブルグマンジャパン株式会社

石油精製、石油化学、鉄鋼、医薬、紙、食品など、人々の暮らしに欠かせない製品をつくる各種産業プラント。莫大なエネルギーを供給し続ける発電プラント。最先端の高度技術でシリコンウエハや液晶を生み出す半導体プラント。これら世界中のプラントで昼夜稼働しているポンプ、タービン、コンプレッサー、攪拌機、半導体製造装置など、重要な役割を担う多くの産業機器に当社のメカニカルシールをはじめとする製品が使われています。

近年は品質や機能だけでなく、「地球環境にやさしく、人にやさ

しく」をキャッチフレーズに、環境保全、省資源、省エネルギーを目標とした製品づくりを進めています。

また、東京湾横断トンネルの高圧土砂水メカニカルシール、超電導供給装置用の極低温シール、超電導の極低温や半導体製造プロセスの超高真空の金属ベローズ、船舶用ウォータージェットポンプのスタンチューブシール、複合発電の大型カップリングなど、高度なコア技術によって時代の最先端を行く国家プロジェクト等に貢献しています。

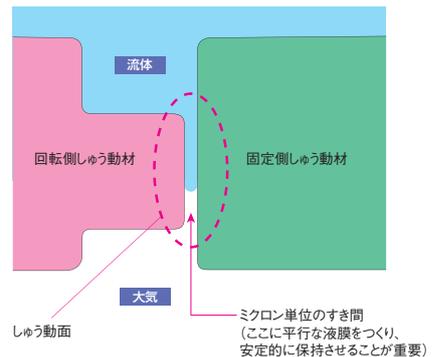
### ミクロン単位の微小なすき間を制御する、メカニカルシールのコア技術

タービンやコンプレッサーといった回転機械には、固定部と回転部があります。それらの間にはすき間があり、そこから内部流体が漏れ出す恐れがあります。この漏出を防ぐために機械等に装着されるのがメカニカルシールです。

メカニカルシールは、回転軸に沿って動く回転環と、動かない固定環で構成されます。双方のリングの端面同士が互いにしゅう動する（ほかの物に接した状態で動く）ことで、機械内部の流体が漏出するのを制限します。双方のシール端面が接する部分にはミクロン単位の薄い液膜が形成され、その液膜の潤滑効果によってシール端面の焼き付きや摩耗が防止されます。また、ミクロン単位のすき間が生む減圧効果によって密封作用も得られます。

当社のメカニカルシールは、「高速・高圧」「高温・極低温」「土砂や繊維のような固形物の含有」など、内部流体のさまざまな条件に適応し、ミクロン単位の厚みの平行な液膜をしゅう動面に形成するとともに、液膜を安定的に保持します。その優れた潤滑技術は、業界でゆるぎない信頼をいただいています。

メカニカルシールのしゅう動面

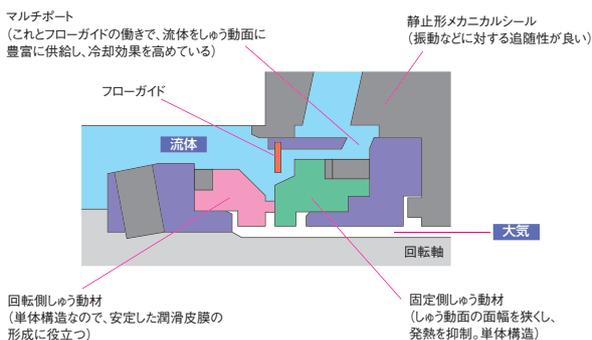


### 温度上昇が大敵の液化ガスプラントに対応、高機能静止型メカニカルシール

沸点が極めて低く、わずかな温度上昇で蒸発してしまう液化ガス等のプラントでは、メカニカルシールは、摩擦による温度上昇を抑えることが求められます。当社の高機能静止型メカニカルシールは、しゅう動面の面幅を狭くするとともに、冷却システムをコンパクトに内蔵しているため、最大効率の冷却を得ながら、しゅう動面での液膜の形成・保持を実現します。これにより、液化ガスの蒸発による大気汚染防止にも貢献しています。



#### 高機能メカニカルシールの構造

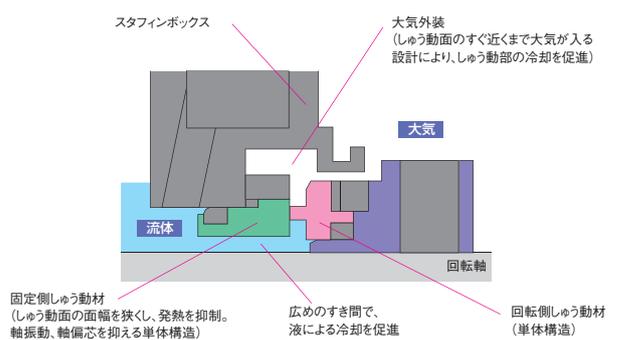


### 環境面、コスト面で大きな効果が期待できる無冷却カートリッジシール

面幅の狭いしゅう動面、スタフィンボックスの大気側への装着（大気外装）、気中回転による空冷効果・放熱効果を活かした構造等を採用し、「無冷却」を実現したメカニカルシールです。これにより、ケミカルプラントの冷却用注水配管が不要となり、水処理費用を大幅に削減できます。これらの技術を活かした、低消費電力「節電メカニカルシール」、熱エネルギーロス的大幅削減を実現する「ノンクーラーメカニカルシール」、ドライ潤滑や非接触型「ガス用メカニカルシール」等もお届けしています。



#### 無冷却カートリッジメカニカルシールの構造



#### 私のCSR活動



広島イーグル(株)  
業務部総務課  
榎 敏明さん

安全衛生業務に従事しています。その一環として交通安全の活動をしています。会社で学んだ「一人ひとりの幸福が全体の幸福につながる」ということを強く意識しながら、交通安全の社内PR・リレー活動等を行うことで、全員が笑顔で楽しく仕事をしていける環境を創って生きたいと思っています。



# 海の環境を守りながら、船舶の安全快適な航行を実現

## KEMEL株式会社

イーグル工業(株)は1966年、船舶用プロペラ軸シールである船尾管シール装置の生産に着手しました。以来、この船尾管シール装置と船尾管軸受の開発製造からメンテナンスまで、一貫した生産サービス体制を展開してきました。(株)神戸製鋼所との共同出資で船用事業会社コベルコイーグル・マリンエンジニアリング(株)を2004年に設立し、2010年には完全子会社とし、その社名をKEMEL(株)に改めました。以後、同社がEKKグループの船用事業の中核を担っています。

船尾管シール装置は船舶機器の中でも技術的難易度が高い重要部品であり、製品にはきわめて高い信頼性が求められます。KEMEL(株)は長年培ってきた高度な技術力とノウハウを活かして、小型漁船等の内航船用から大型タンカーや豪華客船等の外航船用まで、その安全で快適な航行に貢献するとともに、潤滑油による海への環境負荷低減を実現する製品・サービスを幅広く展開し世界中の船舶業界で不可欠の存在となっています。

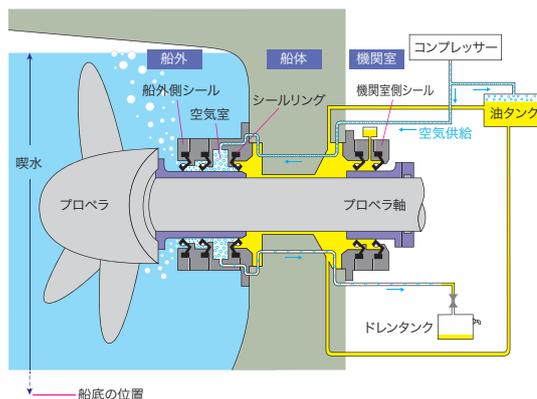
### 高度な密封性と耐摩耗性を誇る、無公害型エアシール

油潤滑用船尾管シールは、中・大型船の船尾管の船外側と機関室側に装備されます。船外側のシールは、船外の水の船尾管内への浸入を防ぎ、同時に船尾管内の潤滑油の船外への漏れも防ぎます。また、機関室側のシールは、船尾管内の潤滑油の機関室内への流出を防ぎます。潤滑油が外部に漏れ出ると環境汚染となり罰せられ、水が入って潤滑油に混ざると軸受が焼き付く恐れがあるため、これらのシールの役割は極めて重要です。

当社では、油潤滑用船尾管シールとして、標準タイプの「KEMELコンパクトシール」に加え、密封性をさらに高めた無公害タイプの「エアシール」を開発しました。このシールでは、船内からシールリング間に空気を供給して2本の海水側シールを背面より押し上げ、空気を海水側に吹き出させます。これにより喫水の変化を感知し、それに応じた適切な圧力を各部に付加することで、海水の船尾管への浸入を防ぐとともに各シールリングにかかる負荷も小さくしています。また、空気室から供給された空気のうち少量をドレンタンクへ戻すことにより、万一空気室へ漏れ出た潤滑油をドレンタンクに回収できるようになっています。この技術により、当社は中・大型船の船尾管シールにおいて世界トップシェアを占めています。



船尾管シール



シールリング



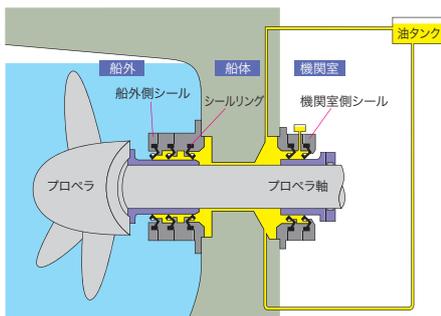
シールリング断面

### 安定した密封性能を発揮する KEMELコンパクトシール

船外側に3本、船内側に2本のシールリングが装備されています。船外側シールのプロペラ側2本は船内に海水が入らないようにしています。その他の3本は潤滑油が船外や船内に漏れるのを防いでいます。各シールリング間には潤滑油が封入されています。

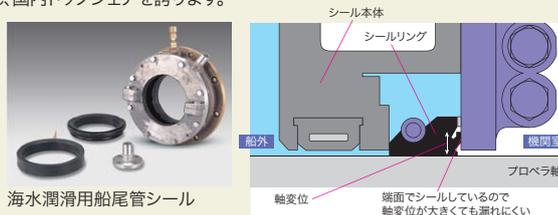
### シール機能、品質を左右するシールリング

織布で補強された耐熱性の高い特殊ゴム材を使用。柔軟性と強度を兼ね備えています。断面形状についても、大きな軸の動きに追従できるよう、長年のノウハウと設計技術を駆使して開発されています。シールリング用ゴム材料は長期にわたって安定した機能を発揮するように特別な配合と製法で作られています。



### 小型船で国内トップシェアの海水潤滑用船尾管シール

シール部が端面のため、プロペラ軸の半径方向への大きな軸変位にも追従し、優れた密封性能を発揮する、環境にやさしい海水潤滑シールです。シンプルな構造で小型船や近海船の多くに採用され、国内トップシェアを誇ります。



海水潤滑用船尾管シール

# CSRマネジメント

ステークホルダーの信頼を得て企業の社会的責任を果たしながら、事業の持続的発展を実現していくために、経営体制を構築し、充実に努めています。

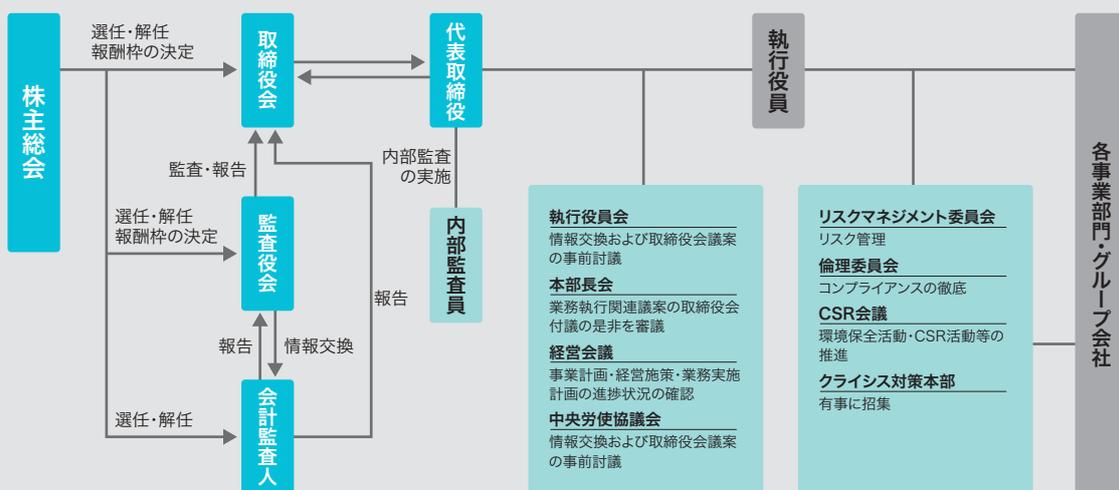
## コーポレートガバナンス

EKKは経営の意思決定がただちに実行に移されるよう常に組織の見直しを行うとともに、大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制の整備に努めています。特に経営会議をはじめとする各種会議には、その重要性に応じ監査役、労働組合の参加を得ることで経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診断は経

営層レベルにおける問題点の把握と共通認識が図れる体制になっています。

また企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、リスクマネジメント委員会を設置し有事での備えとしています。加えて、全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

### コーポレートガバナンス体制



### 中期経営計画

## 持続性ある成長への基礎固め —10年後の繁栄を期して—

EKKグループは、このたび、「持続性ある成長への基礎固め」と位置付けた新たな3ヵ年計画を策定しました。

この3ヵ年計画では、初年度の2011年度は、売上高1,000億円、営業利益93億円の目標を掲げました。そして、最終年度の2013年度には売上高1,200億円、営業利益150億円(営業利益率:12.5%)を目指し、総従業員数では約5,000名、関連会社44カ国に及ぶ文字通りのグローバルカンパニーへ第一歩を踏み出していきます。

当グループは、その成長に向けて、新たな取扱品目の拡充や、シナ

ジー効果を見込めるM&Aなどについても前向きに検討していく予定です。

また、次世代製品開発のための研究開発投資については、ハイブリッドカーを含む新市場向け製品のシーズ発掘と開発に重点をおいて推進していきます。そして、海外拠点と一体となった販売、生産、コスト削減等の活動強化を図るとともに、人財交流によるスキルアップや、グローバル経営力の強化に努めてまいります。

今期につきましては、国内においては東日本大震災の実体経済への影響が懸念されますが、中国・インドをはじめとする新興国の成長は継続し、また先進国の景気回復も緩やかながら回復傾向で推移するものと想定されます。このような事業環境においても、直近の「体質改革3ヵ年計画」で培った強固で健全な企業体質をもとに、新3ヵ年計画に取り組んでいきます。

# リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止するとともに、クライシス(緊急事態)発生時の対応を定めるため、EKKは2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」に基づき、企業倫理、法令遵守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

## リスクマネジメントの運用体制

### リスクマネジメント委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価し、それらを組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

### 倫理委員会

会社の事業運営に伴って発生する倫理上の問題に関して、法令、業界のルール、社会規範に照らし、誠実透明かつ適正なる倫理に即した行動を保証する体制を整えます。また、会社が市場からの信頼と評価を得られるような諸施策、および従業員の労働環境を倫理という視点から改善するような諸施策を推進します。

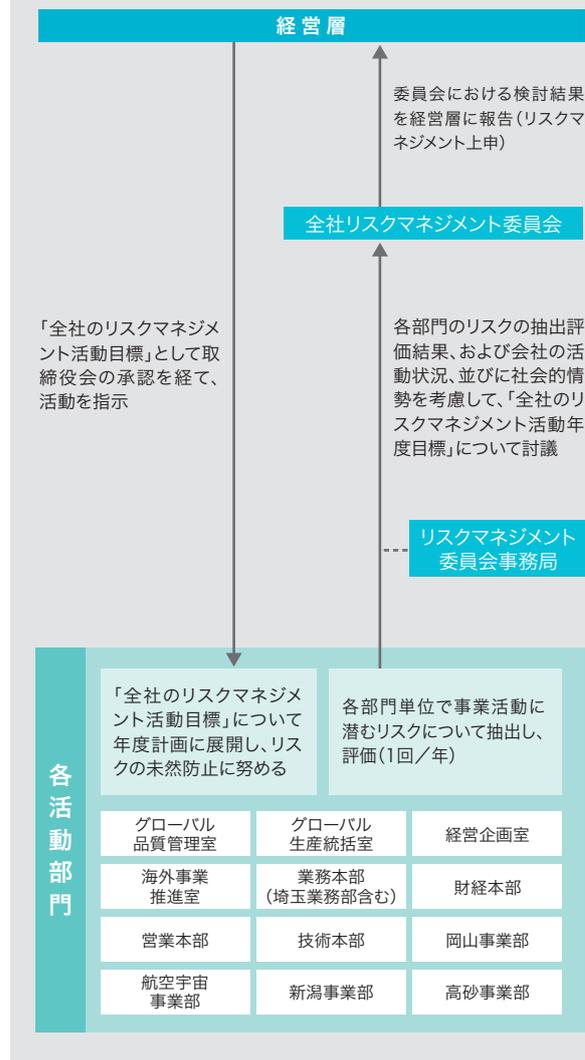
### クライシス(緊急事態)対策本部

クライシスが発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速・的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

### 倫理相談窓口

従業員から寄せられる倫理疑義事項(法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項等)に関する相談の解決と、適切な企業行動の維持を図ります。この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織

## リスクマネジメント体制



自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行などを事前に発見し、主体的に解決する「自浄制度」です。

## 主要推進項目

- 1 グローバル経営力の向上
- 2 人財の育成(人財は新しい価値を創造提案する)
- 3 グローバル生産体制の構築
- 4 品質至上主義の徹底
- 5 10年後に花開く新商品の開発とそれを可能にするコア技術の強化

## 各事業における取り組み方針

<b>自動車・建設機械業界向け事業</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グローバル経営基盤の強化と成長市場へのグローバル生産の推進</li> <li>2 技術伝承と現場力向上</li> <li>3 安全・品質・環境の弱点強化</li> <li>4 コア技術深耕と新製品開発</li> </ol>	<b>一般産業機械業界向け事業</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アジアパシフィック、インドと一体となった経営体制構築</li> <li>2 適地生産の実践と納期維持率の向上</li> <li>3 致命欠陥、再発クレームの撲滅</li> </ol>
<b>船用業界向け事業</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アジア市場への本格参入</li> <li>2 環境配慮型製品の開発</li> <li>3 グループ力の向上</li> </ol>	<b>航空宇宙業界向け事業</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 技術の伝承とものづくり力の強化</li> <li>2 海外販売網整備、海外拡販</li> <li>3 固有技術蓄積による新商品開発</li> </ol>

## 目標経営数値



# 環境マネジメント

EKKグループ全体で継続的に環境保全活動に取り組んでいくために、環境方針を定め、環境マネジメントを推進する仕組みを確立して、効率的かつ効果的な実践を図っています。

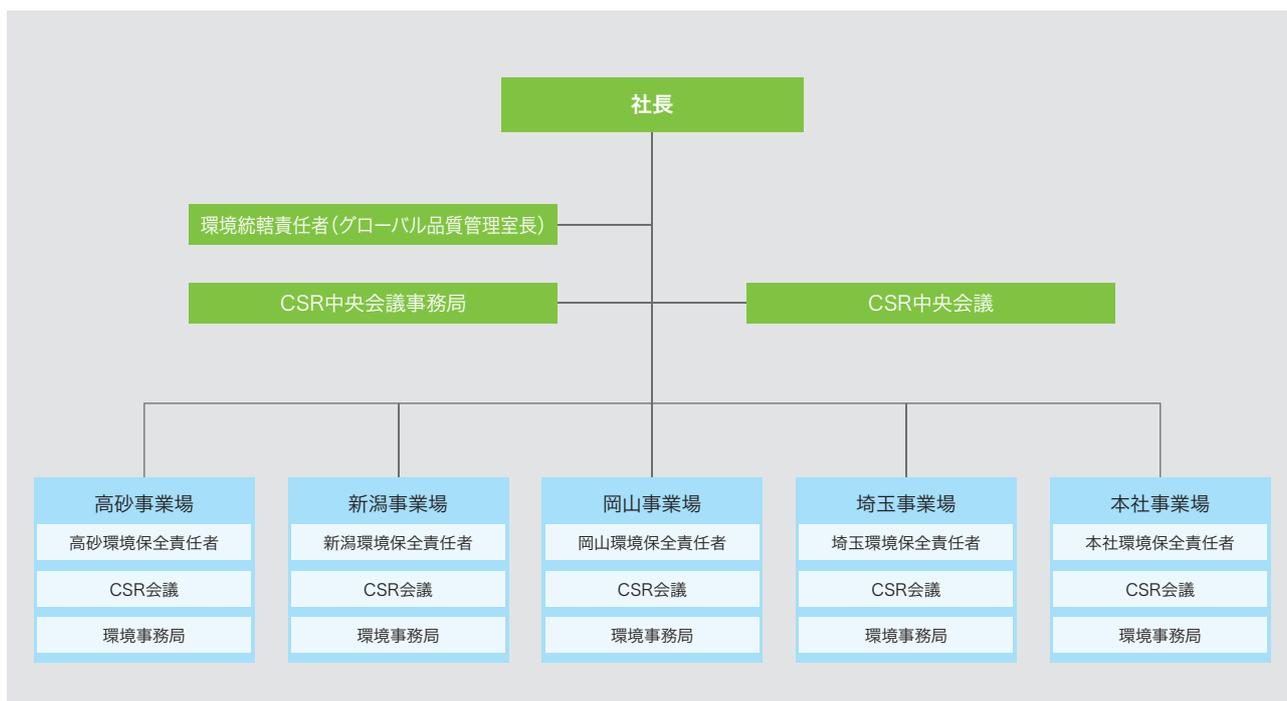
## 環境マネジメントシステム

### 環境管理組織体制

EKKグループでは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは社長を議長とし、各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。

ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境保全責任者によって各事業場に展開されます。

また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューが実施されます。



### ISO14001 認証取得状況

EKKグループでは、本社および国内の生産事業場が環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を一括取得しています。これにより、同一方針、同一目的・目標のもとに、統一の取れた環境保全管理活動を行っています。2010年6月にKEMEL新潟、KEMEL鋳造部門へ認証拡大を行いました。2011年度は、国内連結企業への更なる認証拡大を図るため、社内の環境管理システムに認証未取得の1社を組み入れ、当該企業での環境保全活動の運用管理を開始しました。

### 認証取得状況

認証取得サイト	
イーグル工業(株)	埼玉事業場、岡山事業場、EKK営業支店
イーグルブルグマンジャパン(株)	新潟事業場、埼玉事業所、EBJ営業支店
KEMEL(株)	高砂事業所、呉工場、新潟工場
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)	
岡山イーグル(株)	
島根イーグル(株)	
イーグルサービス(株)	岡山事務所、福島事務所、浜岡事務所、柏崎事務所
北海道イーグル(株)	
リグナムバイター(株)	東京営業所

## 環境に関連する法令遵守状況

EKKグループで遵守すべき法令等は全部で254項目あり、すべての項目について定期的に遵守を確認する体制をとっています。

### EKKの事業活動に関連する環境法令等

- 悪臭防止法
- エネルギーの使用の合理化に関する法律
- 下水道法
- 工業用水法
- 工場立地法
- 浄化槽法
- 振動規制法
- 水質汚濁防止法
- 騒音規制法
- 大気汚染防止法
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律
- 毒物及び劇物取締法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 特定家庭用機器再商品化法
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律
- 河川法
- 瀬戸内海環境保全特別措置法
- 排水基準を定める省令
- 土壌汚染対策法
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律
- RoHS指令
- ELV指令
- REACH規制

## 緊急事態対応

EKKグループでは、燃料油・溶剤・排水処理液などが万が一漏洩した際に備え、さまざまな事態を想定し定期的に緊急事態対応訓練を実施しています。今回の東日本大震災で被災した他企業の経験なども参考にしながらEKKグループの緊急事態対応のさらなる改善を推進します。



EKK岡山工場 緊急事態訓練

「ヤ」を実施し、広く意見を求めました。その結果、非常に貴重な意見が多数寄せられました。これらを今後の活動に積極的に活かしていきます。



本社 ワイガヤ報告会

## 環境診断

EKKグループでは半期に一度、各サイト(事業場、関係会社)を訪問し、環境統轄部門が主管となり、環境統轄責任者による「環境診断」を実施しています。この中で、各サイトの環境保全活動に関する実績と計画を検証します。活動の中で生じた問題点を抽出し、その原因を分析して改善を指示します。これら



岡山事業場 環境診断

の内容を以降の環境管理活動の計画に確実に反映させることで、環境保全活動の継続的なスパイラルアップを図ります。

## 更新・定期審査および内部監査等

EKKグループでは、監査力量を有する社内監査員による内部監査、および外部審査機関による毎年の審査を実施しています。これにより、システムが適正に運用されPDCAによるスパイラルアップができていないかを検証しています。これらの結果は経営層へ報告し、問題点や改善事項を経営層と共有しながら以降の環境保全活動に展開しています。2011年度は3年ごとの更新審査を受審し、ISO14001システムの継続認証を図っていきます。



EBJ新潟工場 ISO更新審査



EBJ西日本支店 内部監査

## 環境教育・環境ワイガヤの実施

EKKグループではISO14001認証取得事業場の全従業員に、毎年、環境業務推進計画書に基づいて専用のテキストを作成し、環境基礎教育を実施しています。

また、2010年度は環境保全活動の活性化と充実化を目的に、10年後のEKKグループの環境貢献について「環境ワイガ



EBJ新潟工場 定期審査



岡山イーグル 更新審査

## 環境目的・実績と目標

当年度、翌年度、翌々年度と3年間の年度別環境目標を設定し継続的に取り組むことで、目標の着実な達成を目指しています。

方針	環境目的	2010年度の実績	2011年度環境目標	2012年度環境目標	2013年度環境目標
製品の開発にあたっては、環境影響に配慮する	1 会社の技術・資源等を活用し、環境影響の抑制に寄与する製品または環境配慮型製品を開発する	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進
	2 環境に関する顧客問合せに確実に対応する	—	システム検討	システム試行運用	システム本格運用
省資源・省エネルギーに努める	3 CO <sub>2</sub> 総排出量: 08年～12年平均で90年度対比12%削減(京都議定書:90年度対比6%削減【90年:29,140ton】の2倍の目標) 毎年の省エネ計画の項目、CO <sub>2</sub> 削減計画量の100%実施(各事業場の省エネ委員と連携して推進する)	23,394ton	省エネ計画進捗 100%達成	省エネ計画進捗 100%達成	省エネ計画進捗 100%達成
	4 原油換算エネルギー原単位: 原油換算の生産金額原単位を前年度対比で1.0%削減する	0.260KI/百万円	0.257KI/百万円 [前年度対比1.0%減]	0.254KI/百万円 [前年度対比1.0%減]	0.252KI/百万円 [前年度対比1.0%減]
廃棄物の低減と再資源化に努める	5 廃棄物の適正な分別管理により、リサイクル率を2010年度の実績を維持する	98.3%	98% [2010年度レベルの維持]	98% [2010年度レベルの維持]	98% [2010年度レベルの維持]
環境影響の継続的改善および汚染の予防に努める	6 PCB入り設備(装置)を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理
	7 吹付けアスベストを適正に管理する	適正管理維持を実施	処理完了	—	—
	8 2013年までにジクロロメタンの使用を全廃する	27.5ton	各事業場毎の指標に従った適正管理	各事業場毎の指標に従った適正管理	全廃、維持管理
	9 オゾン層破壊物質の大気放出量を適正(各事業場毎の管理指標に従う)に管理する【2020年度までに全廃】 《対象物質:HCFC225》	1,679.6kg	各事業場毎の指標に従った適正管理	各事業場毎の指標に従った適正管理	各事業場毎の指標に従った適正管理
	10 地域環境への貢献活動の推進	事業場周辺の環境保全活動実施	事業場周辺の環境保全活動 その他地球貢献活動の抽出	事業場周辺の環境保全活動 その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動 その他地域貢献活動の展開
	11 原料・材料・部品・製品のグリーン購入の推進を図り、グリーン調達率2011年までに100%とする	グリーン調達率 90.9%	グリーン調達率 100%	取引先の適正管理維持を実施	取引先の適正管理維持を実施
	12 最終放流口からの油・酸・アルカリ・有機溶剤・その他環境汚染物質の流出防止を図る	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
13 土壌・地下水汚染の継続的改善	ジクロロメタンによる地下水汚染有り(埼玉) フッ素による土壌汚染有り(岡山)	管理手順に従った適正管理(埼玉) 土壌汚染の除去・入替(岡山)	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	
法規制および同意するその他の要求事項を順守する	14 溶解炉・ボイラー等から放出する煤塵を適正に管理する	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
	15 コンプレッサー等の特定施設から発生する騒音・振動を適正に管理する	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
環境マネジメント1-6項	16 環境管理活動の活性化	—	提案・表彰制度の検討	提案・表彰制度の導入・運用	提案・表彰制度の運用

※グリーン調達率=(「グリーン調達ガイドライン」順守取引先数÷「グリーン調達ガイドライン」適用取引先数)×100

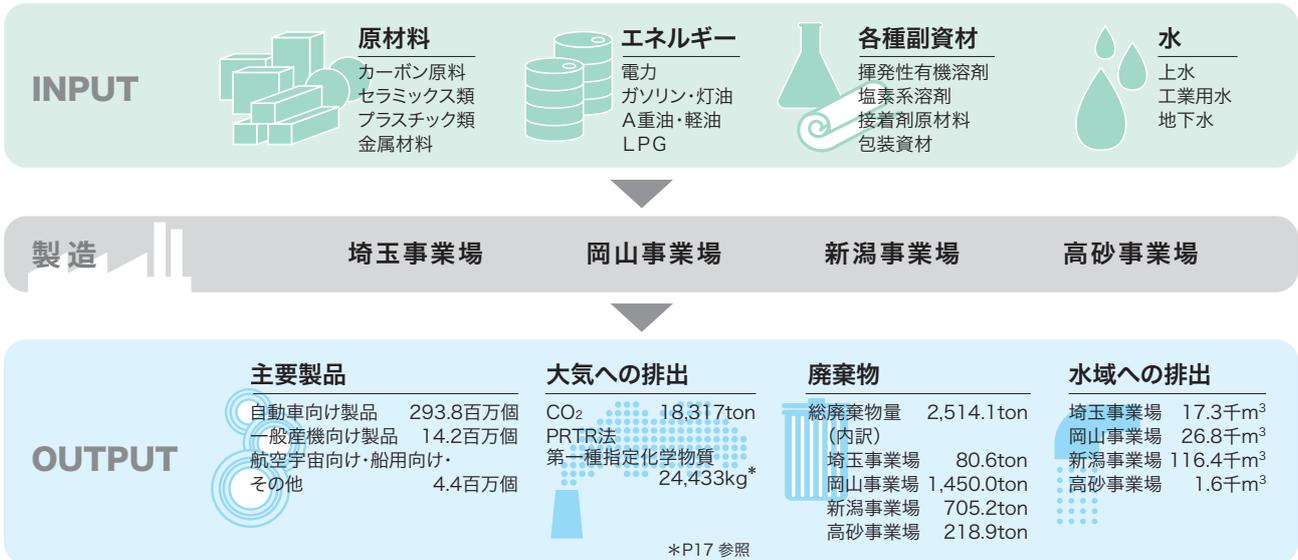
※2011年度より新たに連結3社を集計の対象範囲に加えた

※2011年度よりEKKグループの省エネ活動の実質的効果をより明確化する目的で、エネルギー原単位を電力会社のCO<sub>2</sub>換算係数に依存しやすいCO<sub>2</sub>原単位から、原油換算原単位に変更し管理することにした

# 環境負荷削減の取り組み

地球温暖化防止や循環型社会構築に貢献するため、各種省エネ、廃棄物削減、使用化学物質の低減等の環境負荷物質削減活動に取り組んでいます。

## 事業活動と環境負荷



※OUTPUTの数値は2010年度の集計の対象範囲での実績を示す

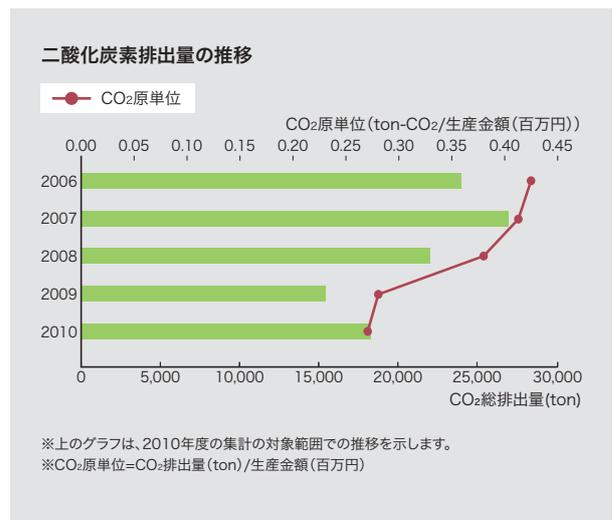
## 省エネルギーへの取り組み

EKKグループでは、省エネルギーによる地球温暖化防止への貢献を重要な課題と捉え、活動を推進しています。各工場では新規設備の導入時などには省エネタイプのものを優先して選定しています。

また、事務処理業務が中心の間接部門でも、蛍光灯やPC電源のこまめなOFFやコピー用紙の節減などの地道な省エネ活動を行なっています。本社・支店などもISO14001システムに組み込み、パトロールや定期的な内部監査・教育訓練などで省エネルギー活動の活性化を図っています。

この結果、EKKグループのCO<sub>2</sub>総排出量は世界的経済不況の影響とその後の急激な回復の影響を受けていますが、長期的なトレンドは低下傾向にあります。2010年度は生産金額ベースのCO<sub>2</sub>原単位についても2003年度対比で50%の低減を実現し、地球温暖化防止に貢献しています。

2010年度には、各事業部・関連会社のエネルギー管理部門を中心とする「省エネルギー検討委員会」を設立しました。この委員会では省エネルギー関連の最新動向、業界団体・グループ会社の省エネ事例の情報共有、将来のEKKのCO<sub>2</sub>排出量シミュレーションや、中長期を踏まえたEKKの今後の省エネに関する課題・重点取り組み事項等に関する検討など、省エネルギーに関する技術的検討を推進しています。



## 2011年夏期のピーク電力削減への対応(エネルギー監視システムの導入等)

2010年度より活動を開始した省エネルギー検討委員会において、EKK各工場でのエネルギー使用状況の詳細を把握するためエネルギー監視システムの導入を進めました。東日本大震災による2011年夏期の電力不足に伴う「ピーク電力15%削減」の政府通達に対して、エネルギー監視システムが非常に有効に活用できることが判明しました。この監視システムの導入により、工程や設備ごとのエネルギー使用量と工場全体のエネ

ルギー使用状況がリアルタイムで把握できるようになりました。また、エアコンのON/OFF比率なども、温度を監視しながら自動制御できる機能も備えています。

ピーク電力15%削減に向けて、エネルギー監視システムをフル活用するとともに、電力使用状況を社内に公開し、節電への啓蒙促進も図っています。

## 廃棄物削減の取り組み

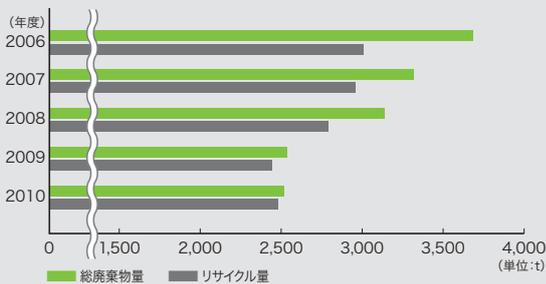
企業活動で発生する廃棄物の動向については、ステークホルダーの皆様、それもとりわけ周辺住民の方から高い関心が寄せられています。EKKグループではこれを「企業の社会的責任」と捉え、法に従い安全かつ適正に処理しています。

2001年度当初、リサイクルできたのは一部の金属廃棄物のみでしたが、その後、廃プラスチック、カーボン粉、有機汚泥等

をリサイクル化し、リサイクル率を向上させてきました。

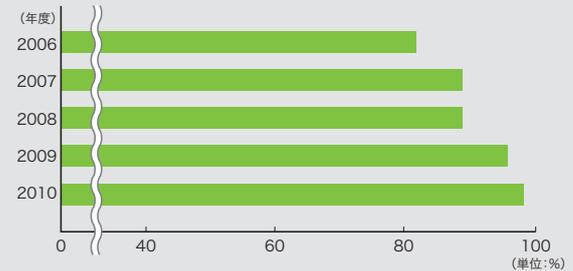
これらの活動を通じて2010年度はリサイクル率98%まで向上させることができました。循環型社会の実現に向けて、2011年度以降も全ての事業活動でさらなる廃棄物のリサイクル化を進めていきます。

総廃棄物・リサイクル量の推移



※2010年度の集計の対象範囲での推移を示す

リサイクル率の推移



※2010年度の集計の対象範囲での推移を示す

## 汚染防止・化学物質管理

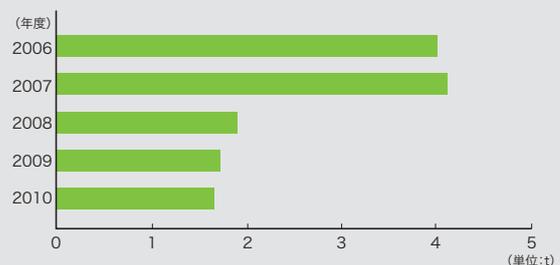
### HCFC225(オゾン層破壊物質)の排出削減

EKKグループでは精密部品の洗浄等にHCFC225を使用しています。オゾン層破壊の防止のため、2010年度のHCFC225の大気放出量を2005年度実績の50%減を目標に排出削減に取り組みました。2009年度の当初目標は既に達成していましたが、2010年度も回収装置のメンテナンス頻度を上げ

て回収効率を大幅に向上させるなどの改善を行ないました。その結果、2010年度は大幅な生産増にもかかわらず、2009年度対比でHCFC225の排出量をさらに削減することができました。



HCFC225使用量の推移



## PRTR法への対応

EKKグループでは、指定化学物質の環境への排出量・移動量の届出を義務付けるPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に従い、該当する下記7物質について法規制に基づく届出を行いました。

### PRTR法第一種指定化学物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量(kg)				移動量(kg)	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	4,985
185	ジクロロベンタフルオロプロパン	1,196	0	0	0	0	205
186	ジクロロメタン	15,000	0	0	0	0	7,000
258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	2,200
300	トルエン	8,237	0	0	0	0	1,422
308	ニッケル	0	0	0	0	0	16,534
349	フェノール	0	0	0	0	0	2,000
	合計	24,433	0	0	0	0	29,451

## 土壌、地下水汚染改良への取り組み

1995年の自主調査で判明した埼玉事業場における塩素系溶剤による地下水汚染(行政指導に従い、周辺への拡散防止のため事業場敷地境界にバリアー井戸を敷設する工事は完了)に関しては、2010年度も工場内地下水の浄化作業を継続し、その効果を定期的に行政に報告しています。計測結果により、汚染領域の縮小が確認されています。

2010年度は、岡山事業場のバルブ棟建て替え工事に伴い、改正土壌汚染対策法(2010年4月改正施行)に基づく形質変更時の土壌汚染調査を実施しました。その結果、1989年から2001年まで使用していたフッ化水素酸洗浄工程跡地の土壌で環境基準を超えるフッ素が検出されたため、行政に報告しました。また、行政指導に基づき地下水調査を実施したところ、フッ素の地下水への浸透や周辺地域への拡散については認められませんでした。この結果を受けて、2011年度は汚染土壌の入れ替え工事を行うこととしています。

## EU指令(ELV規制\*・RoHS規制\*\*)への対応

EUは、材料・構成部品に含有される環境負荷物質を排除するため、ELV規制(自動車業界)では鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを、またRoHS規制(電子業界)ではこれら4物質に加えて臭素系難燃剤(ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル)の使用を禁止しました。EKKグループではこれらの規制に対応すべく、対象製品のデータベース化と代替化を推進しています。

2010年度は上記環境負荷物質の対象業界向け製品における使用全廃を目標に、代替材の選定と評価をお客様と推進し、代替材への切替えを進めてまいりました。そのための評価試験や協議を継続中の一部お客様につきましても、当該物質の使用全廃に向けた検討をお客様のご指導を仰ぎながら推進していきます。

\*ELV規制 EUが2000年10月より施行した、使用済み自動車(End of Life Vehicle)に関する指令。

\*\*RoHS指令 EUが2006年7月より施行した、電気電子機器に関する指令。

### 調達における取り組み

#### グリーン調達の推進

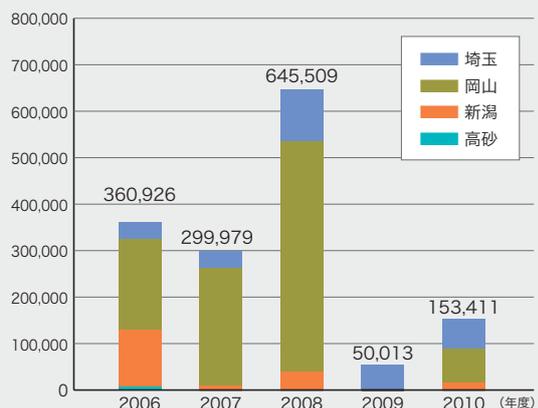
EKKグループでは2008年5月に「EKKグリーン調達ガイドライン」を制定し、仕入先様に対し原材料・部品・製品・副資材に関する化学物質管理の徹底を要請しています。各事業場では仕入先様を招聘して説明会を実施するなどの活動を展開しました。2010年度のグリーン調達率は90.9%となりました。

## 環境投資

2010年の主な投資内容

- (1)岡山事業場(73,915千円)**  
第一工場空調(灯油→電気)、真空ポンプカレンダータイマー化等
- (2)埼玉事業場(63,801千円)**  
受水槽更新、エネルギー監視システム等
- (3)新潟事業場(15,695千円)**  
A棟・S棟コンプレッサー集約工事、B棟エネルギー監視システム等

環境投資実績 (単位:千円)



# 品質への取り組み

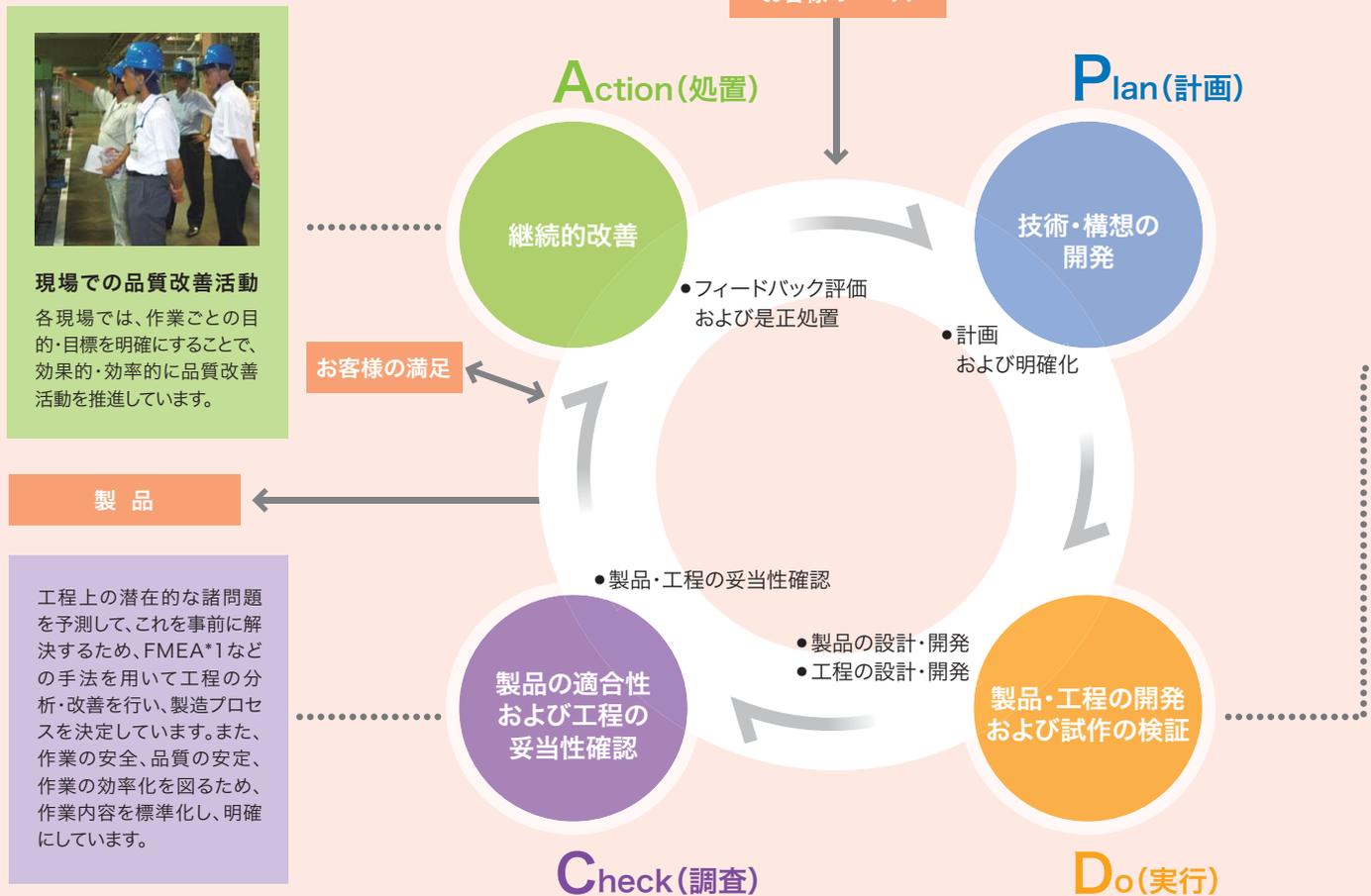
EKKグループでは、お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。また、お客様ニーズを的確にとらえ、製品・工程の改善を継続的に実現していくことで、お客様満足の上昇に取り組んでいます。

## 品質向上に向けた継続的な取り組み

製品の品質に対するお客様の要求は年々厳しくなっており、また、一方で製造技術や設備もますます高度化・複雑化しています。このような状況に対応するためには、ISO9001(品質マネジメントシステム-要求事項)、ISO/TS16949(自動車生産及び関連サービス部品組織のISO9001適用に関する固有要

求事項)、JIS Q 9100(航空宇宙品質マネジメントシステム)等を導入し、これらを適確に維持・運用していく必要があります。イーグル工業ではISO9001等の品質の国際規格認証を取得して、品質向上活動を推進しています。

## 品質マネジメントの流れ



### 私のCSR活動



イーグル工業(株)  
埼玉事業場 技術管理課  
松田 典子さん

技術管理課では、埼玉技術本部のコピー用紙使用量の集計、その結果開示による啓蒙活動、空調機設定温度の適正管理などに取り組んでいます。3月11日の東日本大震災により計画停電という体験をしたことで、改めて電力の大切さを実感しています。今後もさらに環境・資源保全の取り組みを継続していきたいと思ひます。

## 地域とともに 地域・社会との交流

### イーグルハイキャスト(株)が「消防特別功労賞」を受賞

2010年4月28日9時30分頃、イーグルハイキャスト株式会社(旧新ニノミヤメタル株式会社)江津工場(島根県江津市)に隣接する市営アパートから火災が発生しました。これに気付いた同社従業員は消防署に通報するとともに、11名が自衛消防隊として初期活動を行いました。同社はこの功績が認められ、2011年1月9日の出初式において江津市の田中市長より「消防特別功労賞」を授与されました。自衛消防隊は、初期活動において火元住人の介護や逃げ遅れた方の有無確認、避難誘導、プロパンガスボンベの撤去を手際よく行うなど、訓練の成果を発揮し、また延焼も最小限にとどめました。

同社では、今後も企業市民として、地域社会への貢献を目指していきます。



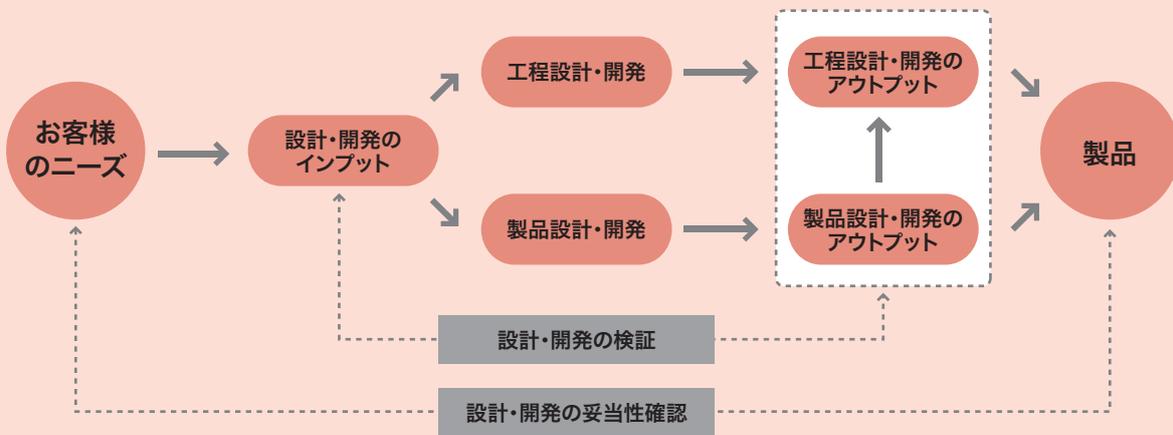
自衛消防隊のイーグルハイキャスト従業員

### 岡山事業場が「交通安全優良事業所」を受賞

岡山事業場は、2010年9月、中国管区警察局長および中国5県交通安全協会長の連名で「交通安全優良事業所」表彰を受けました。

同事業場では「愛情と信頼の理念」のもと、従業員やその家族が交通事故で悲惨な境遇となることがないように、交通事故・違反の撲滅を目指し、長年にわたり事業場従業員全員が一致協力して、交通安全対策に積極的に取り組んできました。

こうした活動が交通事故防止と交通秩序の確立に大きく貢献した、という高い評価をいただき、地元警察署の推薦を得て、このたびの表彰となりました。



設計では、潜在的な製品の故障を予防するため、設計のFMEA\*1などを用いた分析・改善、CAE\*2を用いたシミュレーション解析・改善などを行い、CADを用いた設計を行っています。また、全ての設計アウトプットが設計インプット要求事項を満たすことを確実にするための試験の実施(設計検証)、製品が規定されたお客様のニーズ・要求事項に適合することを確実にするための試験の実施(設計の妥当性確認)などを実施し、製品の保証をしています。

\*1: FMEA(Failure Mode and Effects Analysis)とは、製品や工程に関する潜在的故障とその影響を認識して評価を行い、それらの発生機会を解消または減少させ得る処置を明確にし、その経過を文書化する、故障・不具合の体系的分析方法。

\*2: CAE(Computer Aided Engineering)とは、設計・開発工程において製品の強度や耐熱性、機能や性能を確認するコンピュータシミュレーションのこと。

## 働きやすい職場づくり

安全で働きやすい職場環境を整備することが、個人の能力を引き出し、会社全体の発展につながると考えています。そのために、安全衛生の確保はもとより、心と身体の健康維持・増進、ワークライフバランスの実現などに積極的に取り組んでいます。

### 東日本大震災対応について

東日本大震災にて被災されました方々へお見舞い申し上げます。私どもイーグル工業グループにおける被害は、イーグル工業(株)水戸支店、イーグルブルグマンジャパン(株)仙台支店、鹿嶋営業所、およびイーグルサービス(株)福島事務所に影響が出たものの、幸いにも当グループ従業員の人命被害はなく、福島第一原子力発電所の問題で避難地区に指定されているイーグルサービス(株)福島事務所以外は、ライフラインの復旧に伴い従来の活動に戻っております。これらの拠点に対して、食糧、生活物資の送付や避難場所の提供を実施しました。また、世界中のイーグルグループの皆様よりいただきました義援金を地震で被災したグループ従業員へ支給しております。さらに、青森、岩手、宮城、茨城の各県の復興を目的とした寄付金を各県に500万円、被災された方々へ日本赤十字社を通じて2,000万円の寄付を行いました。今後の復旧・復興の際に必要な当社製品の安定供給を図り、被災各地の復旧・復興を支援してまいります。

### 労働安全衛生の取り組み

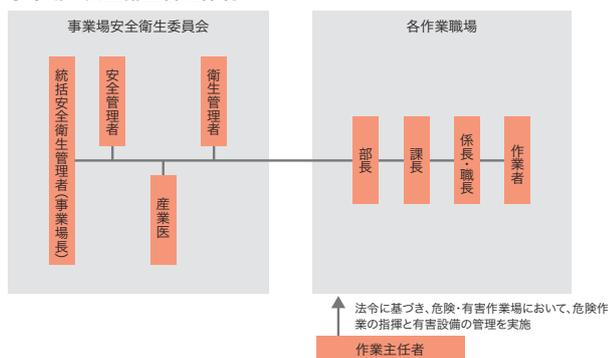
EKKグループでは「安全衛生方針」を定めるとともに、事業場ごとに事業場長を総括安全衛生管理者とする安全衛生管理組織を設け、OHSAS18001を導入して安全衛生活動を推進しています。各事業場事務局と本社総務部とが連携することで、この活動に全社レベルで取り組んでいます。

また、従業員の安全意識の向上と、情報共有化による労働災害の発生防止を目的に、1973年より毎年、NOKグループの「労働災害統計」を社内へ開示しています。

●「安全衛生方針」については、イーグル工業株式会社ホームページでご紹介しています。

[http:// www.ekk.co.jp/csr/safe.html](http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html)

#### 事業場の安全衛生管理体制



### 心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を図るため、24時間電話健康相談サービス(無料)を実施しています。また、産業医、看護師、管理職が共同して従業員のメンタルヘルスケアに取り組むなど、心身の健康管理を積極的にサポートしています。

#### 2010年度電話健康相談実績

相談内容	件数	相談内容	件数
健診・ドックに関する相談	1	育児相談	111
健康保持・増進に関する相談	7	夜間・休日の医療機関の案内	9
気になる体の症状についての相談	298	ストレスおよびメンタルヘルスに関する相談	55
家庭看護	65	紹介手配に関する相談	46
治療に関する相談	220	その他	26
母子保健に関する相談	13	合計	851

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計

### 福利厚生

EKKグループでは、「毎日の生活の充実」「不治の場合の生活保障」「定年後の生活の安定」をキーワードに、従業員の福利厚生制度の充実に努めています。

#### 主な福利厚生制度

目的	内容
財産形成	従業員持株会ほか
会社生活と家庭生活の調和	育児休暇、介護休暇ほか
経済的安定	退職金制度
住居等	社宅、独身寮制度、自動車リースほか

#### 私のCSR活動



イーグルブルグマンジャパン(株)生産技術課  
宮下 綾子さん

私の業務は書類作成が中心なので、コピー用紙の使用量が多くなりがちです。1回の僅かな節約でも、1ヶ月、1年…となるとその効果は大きくなると思え、無駄な用紙を出さないよう、印刷ボタンを押す前には再度印刷設定を確認し、裏紙使用やNアップ印刷をするなど、日々の作業から省資源を心掛けています。

## 従業員表彰制度

業績向上に特に貢献した従業員の労をねぎらうことで、常に他の模範となってもらおうとともに、職場の志気向上も図るため、毎年、従業員表彰を行っています。2010年度は、前年度に比べ、「発明考案表彰」の受賞者が増えました。

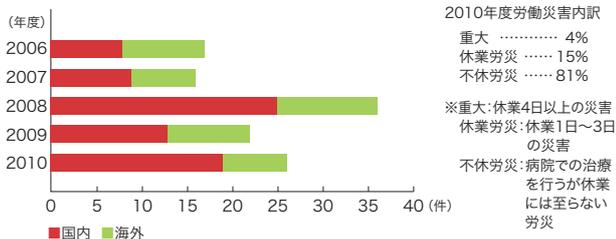
### 2010年度従業員表彰

表彰内容	受賞者数	表彰内容	受賞者数
勤務成績優秀者表彰	4名	販売優秀表彰	14名
発明考案表彰	4名	事務改善表彰	8名
製造改善表彰	37名	永年勤続者表彰	80名
		合計	147名

## 国内外労働災害発生状況

2010年度は2009年度に引き続き、業務本部長による安全パトロール、事業場間での安全パトロール、そして2年間をかけた既存設備の安全総点検を完遂させました。さらにEKKグループ全世界の安全責任者によるミーティングを実施するなど積極的に安全衛生活動を実施してきましたが、残念ながら労働災害の減少には至りませんでした。この反省を踏まえて労災撲滅へ向けて邁進すべく、2011年度はさらに安全衛生活動を充実させていきます。

### 労働災害発生件数(微傷含む)



世界各地の安全責任者によるミーティング



業務本部長によるパトロール (島根イーグル)



事業場間のパトロール (KEMEL高砂事業場)

## 雇用環境整備

EKKグループでは、従業員が意欲や充実感を持って仕事に取り組めるよう、ワークライフバランスを推進しています。時間外労働の削減、年次有給休暇の取得推進などを通じて、子育てを行う従業員の会社生活と家庭生活の両立を支援するための雇用環境整備に努めています。

## 再雇用制度

EKKグループでは2006年度に再雇用制度を導入しました。「心身ともに健康であり、働く意欲がある者」という再雇用基準を設け、これに適合する方を再雇用しています。多くの方がこの制度を利用して定年後の生活の安定を図る一方で、若い世代に技術・ノウハウの伝承を行っています。

## 交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育の一環として交通安全運動を実施しています。

また、無事故・無違反の従業員に対しては、5カ年ごとに表彰しています。

交通事故や交通違反を犯した従業員には、その運転が業務上か私用かを問わず「事故報告書」または「違反届け」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促し、再発防止に努めています。さらに2010年度は従業員に交通安全の重要性について再認識してもらうため、業務本部長による交通安全教育をEKKグループにて実施しました。



業務本部長による交通安全教育



埼玉交通安全講習会



退社時の声かけ運動



全席シートベルト着用推進運動

## 個人情報保護

EKKグループでは、お客様個人を識別する情報について、その重要性を深く認識し、取り扱いにあたっては「個人情報の保護に関する法律」などを順守するよう努めています。さらに「プライバシーポリシー」および「個人情報保護規定」という独自のルールを定め、お客様にご安心いただけるよう個人情報管理の徹底に取り組んでいます。

## 安全設備投資

2010年度の主な投資内容(修繕含む/計53百万円)

- (1) 埼玉事業場(2,624千円)  
作業環境測定、消防法設備法定点検・修繕
- (2) 岡山事業場(24,657千円)  
設備安全対策、事務棟耐震補強工事
- (3) 新潟事業場(16,169千円)  
危険物屋内貯蔵所新設
- (4) 高砂事業場(9,214千円)  
溶解炉安全対策、局所排気装置設置

安全衛生投資実績 (単位:千円)



# 日本と世界に広がるEKKグループ

## 国内事業場・営業支店およびグループ会社

### 北海道イーグル株式会社



正面に噴火湾、左に有珠山、右に駒ヶ岳を望む地に、1996年、イーグルロボの生産・販売・メンテナンス拠点として設立。現在は機械加工専門事業場として「品質第一」がモットー

●**主な製品** メカニカルシール、航空宇宙関係部品の高精度切削加工

### イーグルブルグマンジャパン株式会社 新潟事業場



EKKグループの一般産業機械業界向け製品の生産拠点であるとともに、イーグルブルグマングループのアジア・パシフィック地域マザープラントとして、環境にやさしい製品と関連事業を世界へ展開

●**主な製品** メカニカルシール、溶接ペロース、回転継手、焼結材料応用部品、他

### 埼玉事業場



1965年にメカニカルシールの専門工場として設立。現在は経営企画室や技術本部を中心とする企画、研究・開発の拠点、並びに航空宇宙事業部の技術・生産拠点

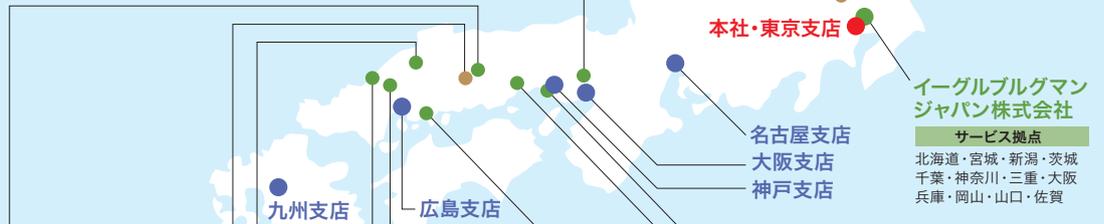
●**主な製品** ジェットエンジン用シール、ロケット用シール等の航空宇宙機器用シール

### 株式会社バルコム



ユーザーの多様なニーズにお応えするため2002年に新工場を建設し、製造部門を移転・拡張。「圧力・荷重の専門集団」として技術を磨き、「業界初」製品を多数開発している

●**主な製品** 圧力センサ(吐出力、アンブ内蔵)、圧カスィッチ、ロードセル、デジタル表示器



### リグナムバイター株式会社



神戸の旧盛り場として知られる「新開地」の南に位置し、約1,300m<sup>2</sup>の敷地にリグナムバイターの本社部門、神戸営業所及びKEMEL(株)の神戸支店、神戸工場が同居

●**主な製品** KEMEL製品を主体とした船用関連商品の仕入れ販売

### KEMEL株式会社



2010年5月にEKKの100%子会社となり、総合船舶用シールメーカーとして「船舶の安全・快適な航行」「環境保護」に貢献している

●**主な製品** 船尾管シール装置、船尾管輪受、中間輪受、プロペラ修理、他

### 岡山イーグル株式会社



みどり豊かな岡山県中西部に位置し、シール製品やメカトロ製品を生産。地域の環境保全活動やリサイクル率向上に全社員で取り組んでいる

●**主な製品** カークーラーや冷凍機用メカニカルシール、キャタピラ用フローティングシール、ターボチャージャーや燃焼装置の圧力調整バルブなど

### 岡山事業場



美しい山々と豊かな水に恵まれた、岡山県中西部の城下町「高梁市」に位置している。環境保全活動、働きやすい職場づくりに積極的に取り組み、環境に配慮した製品を多く製造している

●**主な製品** 自動車用メカニカルシール、カーエアコン制御弁、原子力発電用大型弁など

### 島根イーグル株式会社



島根県東部・雲南市にあって、EKK岡山事業部品目を生産。リップシールでは世界の供給基地として重要な役割を担う

●**主な製品** リップシール、コントロールバルブ、ATソレノイドバルブ

### イーグルハイキャスト株式会社



2010年8月、機械加工棟を増設し大型鋳物製造から機械加工まで一貫生産を行っている。100kg以下の大ロット製品は自動造型ラインでの対応も可能

●**主な製品** 船舶・建設機械・産業機械等の部品、マンホール鉄蓋(製品単量 5kg~15トン)

### 広島イーグル株式会社



山陰と瀬戸内の中間、広島県西部の山県郡北広島町にあってEKKグループ自動車産業向け部品加工の中核工場としての役割を担う

●**主な製品** 自動車のウォーターポンプ用メカニカルシールおよびコントロールバルブの構成部品

### 私のCSR活動



KEMEL(株) 製造部 呉工場  
**石田 勝俊さん**

呉工場は瀬戸内海に隣接していることから、排水管理に気を配っています。点検に加え、廃油缶が工場外にあるため流出防止の緊急対応訓練も実施しています。このほか、資源の有効活用として、ダンボールのリサイクルを推進しています。今後も豊かな自然を守るため、私生活においても、エコ活動を心掛けていきたいと思っています。

## 海外グループ会社

私どもEKKグループは「グローバル・アンド・パブリックカンパニー」をキーワードに、ドイツのメカニカルシールメーカーであるブルグマン社と技術・製造・営業、さらには資本分野を含む全面提携を行い、強固なアライアンス関係を構築しています。

欧米諸国や、新興国として成長著しい中国、インドをはじめとして世界34カ国に小会社・関連会社と合わせ約100社を有し、世界三大グローバル・メカニカルシール・プレイヤーの一角を形成しています。

### 生産および販売拠点 (32社)

#### 自動車・建設機械業界向け事業

- ★Eagle Industry Taiwan Co., Ltd.(台湾)
- ★NEK Co., Ltd.(韓国)
- ★EKK Eagle(Thailand)Co., Ltd.(タイ)
- ★Eagle Industry(Wuxi)Co., Ltd.(中国)
- ★Simrax B.V.(オランダ)
- ★Eagle Industry France S.A.S.(フランス)
- その他2社

#### 一般産業機械業界向け

- ★EagleBurgmann Australia Pty., Ltd.(オーストラリア)
- ★EagleBurgmann New Zealand, Ltd.(ニュージーランド)
- ★PT Eagle Industry Indonesia(インドネシア)
- ★EagleBurgmann India Private Limited(インド)
- EagleBurgmann Germany GmbH & CO. KG
- その他20社

### 販売拠点 (44社)

#### 自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK Eagle Industry Asia Pacific Pte., Ltd.(シンガポール)
- その他1社
- 一般産業機械業界向け事業
- EagleBurgmann France S.A.S.(フランス)
- EagleBurgmann Italia s.r.l.(イタリア)
- その他33社

#### 船用業界向け事業

- ★KEMEL Marine Europe, Ltd.(英国)
- ★KEMEL Marine Inc.(米国)
- ★KEMEL Marine Asia Pacific Pte., Ltd.(シンガポール)

#### 航空宇宙業界向け事業

- ★Eagle Engineering Aerospace Singapore Pte., Ltd.(シンガポール)
- その他3社

### その他 (12社)

#### 自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK Inc(米国)
- ★Eagle Europe GmbH(ドイツ)
- その他2社

#### 一般産業機械業界向け事業

- ★EBI Asia Pacific Pte., Ltd.(シンガポール)
- EBI Atlantic A/S(デンマーク)
- EBI Asia Pte., Ltd.(シンガポール)
- EBI Middle East A/S(デンマーク)
- その他4社

- ★：連結子会社
- ：持分法適用会社



**Eagle Industry France S.A.S.**  
(フランス)

1998年設立。ドイツ国境に近いロレーヌ地方に立地し、カーエアコン用コントロールバルブを生産している。2011年10月には新工場を建設し、カーエアコン用コントロールバルブの移管を行い、2012年には年間1,000万個のコントロールバルブが生産できるよう対応を推進している。



**EKK Eagle Industry India Pvt. Ltd.**  
(インド)

2008年、インドにおけるEKK自動車用部品の生産販売会社として、インドのブネ市に設立。2010年、EagleBurgmann India Pvt. Ltd.内に事務所と製造場所を設置し、現在ウォーターポンプ用メカニカルシール、2輪排ガス対策用リードバルブの輸入販売を手がけている。2011年度中にはウォーターポンプ用メカニカルシールの生産販売を開始予定。



**EagleBurgmann Korea Co., Ltd.**  
(韓国)

1996年ブルグマン社の子会社として設立され、EKKとのアライアンスに伴い、2005年に現社名に変更。ソウル南部の烏山市に本社を置き、2010年ソウル事務所も開設した。メカニカルシール、サプライシステムの製造、販売、技術サポート、トレーニング等、幅広い活動を行っている。



**EagleBurgmann New Zealand Limited (EBNZ)**  
(ニュージーランド)

1983年EKKの子会社として設立され、ブルグマン社とのアライアンスに伴い、2005年に現社名に変更。オークランドに本社を置き、クライストチャーチにサービス拠点を持つ。最新鋭の精密加工機械と熟練作業員を有し、各種メカニカルシールの設計、製造、販売を行っている。

# 「EKKグループ CSR報告書 2011」へのご意見、ご感想をお寄せください。

「EKKグループ CSR報告書 2011」をお読みいただきありがとうございます。

皆さまから読後のご意見、ご感想をいただき、今後のCSR活動や本報告書の作成に役立てていきたいと考えています。つきましては、お手数ですが、下記アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答送付先

イーグル工業株式会社  
業務本部 総務部 CSR課

FAX.03-3432-5448

## Q1 本報告書をお読みいただいたご感想をお聞かせください。

- |          |                                   |                                 |                                 |                                   |                                 |
|----------|-----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| わかりやすさ   | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通     | <input type="checkbox"/> ややわかりにくい | <input type="checkbox"/> わかりにくい |
| 読みやすさ    | <input type="checkbox"/> 大変読みやすい  | <input type="checkbox"/> 読みやすい  | <input type="checkbox"/> 普通     | <input type="checkbox"/> やや読みにくい  | <input type="checkbox"/> 読みにくい  |
| 記事のボリューム | <input type="checkbox"/> 多すぎる     | <input type="checkbox"/> やや多い   | <input type="checkbox"/> ちょうどよい | <input type="checkbox"/> やや少ない    | <input type="checkbox"/> 少なすぎる  |
| 記事の内容    | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通     | <input type="checkbox"/> やや物足りない  | <input type="checkbox"/> 物足りない  |

## Q2 本報告書で印象に残った項目を下からお選びください(複数回答可)

- 表紙 目次 大きな地球を守る、確かな技術 トップメッセージ くらしと社会を支えるEKKグループ
- 特集「最先端」を支えるEKKの技術…世界中の産業機器に装着され、その働きを中核で支える
- 特集「最先端」を支えるEKKの技術…海の環境を守りながら、船舶の安全快適な航行を実現
- CSRマネジメント 環境マネジメント 環境負荷削減の取り組み 品質への取り組み
- 地域・社会との交流 働きやすい職場づくり 日本と世界に広がるEKKグループ 私のCSR活動

## Q3 本報告書の項目を一部割愛した冊子版報告書も公開していますが、冊子版はご覧になりましたか。

- 見た 見ていないので、見ようと思う 見ていないが、今後も見るかわからない 見ようと思わない

## Q4 本報告書やEKKグループのCSR活動について、ご意見・ご感想・ご提言がありましたらお聞かせください。

## Q5 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか。

- お客様 株主・投資家 当グループ事業場等の近隣にお住まいの方 政府・行政関係者 報道関係者
- NGO・NPO 企業・団体の環境担当者 調査・研究機関 学生 当グループ従業員
- その他( )

ご協力ありがとうございました。お差支えない範囲で、下記にご記入ください。

ご記入いただいた個人情報は適切に管理し、本報告書のアンケート情報としての利用に限定し、ほかの用途には一切使用いたしません。

■お名前

■性別

■年齢

男性・女性

歳

■ご連絡先(□ご自宅 □勤務先)

〒

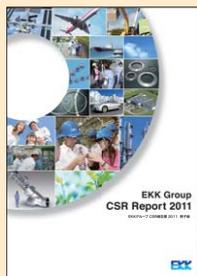
■E-mail

■ご職業

■部署・役職名

# EKKグループ CSR報告書 2011

冊子版のご案内



本誌（WEB版）の掲載内容から「経営体制」と「環境報告」を割愛した、ダイジェスト版の冊子も発行しています。

さらに、下記について、WEBページで紹介しています。

- リスクマネジメント方針  
<http://www.ekk.co.jp/csr/risk.html>
- 事業活動における倫理上の行動指針  
<http://www.ekk.co.jp/csr/ethics.html>
- 安全衛生方針  
<http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html>
- 環境方針  
<http://www.ekk.co.jp/csr/env.html>
- EKKグリーン調達ガイドライン  
<http://www.ekk.co.jp/csr/green.html>



イーグル工業株式会社

〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル

<http://www.ekk.co.jp/>